

佐世保市東浜にあるbeachrockと 考えられる礫岩

西村 暉 希 (長崎北高等学校)

1972年3月、阪口和則氏より佐世保の東浜海岸に beachrock らしい礫岩があることを聞いた。その後同氏の案内でこの礫岩を調べる機会を得たので、深謝し、その概略をここに紹介してみたいと思う。

この礫岩は佐世保層群相ノ浦層(走向NS~N80E, 傾斜8N)の砂岩の上を覆っている。礫は玄武岩と砂岩の大礫を主としているが、玄武岩の巨礫や、砂岩の中礫なども多い。このほか1cm大の石英や黒曜石も少ないが含まれている。砂岩礫は相ノ浦層の砂岩と考え、玄武岩礫は東浜町の海拔60~80mを覆っている普通輝石かんらん石玄武岩と考えてまちがいない。また黒曜石を含む軽石凝灰岩が近くの崖をつくっているが、近いわりには礫岩の中に黒曜石が少ないのはどうしてだろう。この礫岩は一口でいえば、玄武岩と砂岩の垂円礫よりなり淘汰度5~7程度の礫岩である。

beachrock として

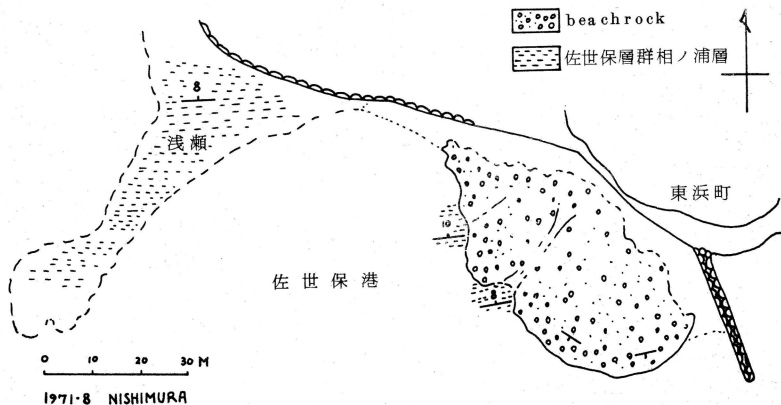
みたこの礫岩の特徴

- a 潮間帯に位置し干潮の時はすべて海面上に現われてしまう。
- b 礫をすぐ近くに分布している岩石に求めることができる。第四紀の玄武岩礫を多く含んでいる。
- c 脇岬や奈留島池塚

の beachrock のように幾層も重なったマイクロケスタの形態はとっていないが、海側へ10°以下のゆるやかな傾斜をなしている。

- d 面積は約1,300㎡で厚さは厚い所で約50cm。
- e 標本111g中約2.5%がHClに溶解し、脇岬の14.5%、池塚の13.2%に比べるとその溶解率は低い。
- f 礫の大きさや淘汰度は野母崎のbeachrockに非常に類している。
- g 礫岩の背後には砂丘やラグーンはない。
- h 時代を表わすような物質はこの礫岩から産出していない。

以上のような特徴をもったこの礫岩は、特にa, b, cなどから beachrock と考えることができる。すなわちbeach conglomerate ということになる。



佐世保市東浜の BEACHROCK

参 考 文 献

1. 橘 行一(1963) 五島のbeachrock
について(その1) 長崎大学教養部紀要
 2. 長浜春夫・松井和典(1958) 蛎ノ浦地
質図幅
 3. 西村暉希(1970) 長崎県のbeachrock
(1) 長崎北高論叢1号
 4. 西村暉希(未発表)野母崎町野母の
beachrock について
-